

事業名：えべつ観光協会支援事業

【事業番号 82】
観光振興課 主査(観光振興)

政策	02 産業	戦略	1 にぎわいと活力を創出するまちづくり						
取組の基本方針	03 観光による産業の振興	具体的施策	(1) 地域資源の発掘と活用						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

(一社) えべつ観光協会

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標 1	えべつ観光協会会員数	会員	243	239	258	259
対象指標 2	江別市外の人(把握困難)	人	0	0	0	0

手段(事務事業の内容、手法)

(一社) えべつ観光協会に対し、協会事業に係る補助金を交付するほか、観光振興計画の推進のための取組を委託する。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標 1	補助金額	千円	2,510	9,176	17,431	18,861
活動指標 2	市委託事業件数	件	0	0	6	5

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

法人化したえべつ観光協会が、柔軟な発想による協会事業に取り組むことができ、加えて、民間の観光推進体制の中心的組織として体制が強化され、観光振興計画の具現化を図る。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標 1	観光入込客数	人	1,361,201	1,216,970	1,584,938	1,216,970
成果指標 2						

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事業費(A)		千円	2,510	9,176	22,450	23,316
正職員人件費(B)		千円	6,103	15,214	11,406	9,988
総事業費(A+B)		千円	8,613	24,390	33,856	33,304

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
4年度	<ul style="list-style-type: none"> えべつ観光協会管理運営費補助 えべつ観光協会事業費補助(観光・物産紹介冊子の発行、宣伝資材の制作、自走化に向けた事業) 委託業務(レンタサイクル事業、観光セミナー、リアル謎解きゲーム等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助事業 <ul style="list-style-type: none"> 管理運営費/ 11,141千円 事業費/ 6,289千円 ●委託事業 <ul style="list-style-type: none"> レンタサイクル事業他/ 5,020千円

事業開始背景

江別観光協会は、昭和32年に賛同者20数名をもって設立され、以来市から補助金を支出している。令和3年10月に（一社）えべつ観光協会として法人化され、観光協会が民間の観光推進体制の中心的組織となり得るよう、市が実施する観光振興計画事業等を令和4年度から委託している。

事業を取り巻く環境変化

観光協会の会員種別に「賛助会員」を設けたことによる会員増。
観光協会の慢性的なマンパワー不足解消のため、自主自走化へ向けた取組を進めている。

令和 4年度の実績による担当課の評価（令和 5年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	<input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がっていない	理由根拠 →
	新型コロナウイルス感染症拡大による影響が緩和され、外出需要が高まったことで、江別市内の施設や店舗を訪れる方の人数が増加した。	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小	理由根拠 →
	新型コロナウイルス感染症拡大による影響が緩和され、各種市内イベント等の実施が徐々に再開されていくことが見込まれるため。	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由根拠 →
	現状、観光振興計画の具現化を図るため、必要最低限のコストで運営しており、経費削減は民間の観光推進体制の中心的役割を担うことが難しくなるため。	

事業名：観光振興計画推進事業

観光振興課 主査(観光振興)

政策	02 産業	戦略	1 にぎわいと活力を創出するまちづくり					
取組の基本方針	03 観光による産業の振興	具体的施策	(1) 地域資源の発掘と活用					
開始年度	令和 4年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

江別市外の人

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標 1	江別市外の人(把握困難)	人	0	0	0	0
対象指標 2						

手段(事務事業の内容、手法)

地域おこし協力隊や地域プロジェクトマネージャーの制度を活用するほか、(一社)えべつ観光協会と連携し、江別市観光振興計画に基づいた事業を推進する。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標 1	協力隊等採用人数	人	1	2	3	3
活動指標 2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

観光振興計画に基づく地域資源の活用や情報発信を実施し、主に道央圏等近郊からの誘客による交流人口の増加を図る。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標 1	観光入込客数	人	1,361,201	1,216,970	1,584,938	1,216,970
成果指標 2						

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事業費(A)		千円	7,185	8,298	11,244	16,235
正職員人件費(B)		千円	11,444	10,650	3,802	5,378
総事業費(A+B)		千円	18,629	18,948	15,046	21,613

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
4年度	・地域おこし協力隊及び地域プロジェクトマネージャー制度を活用した観光振興計画の推進	地域おこし協力隊関連経費	6,264千円
		地域プロジェクトマネージャー関連経費	4,980千円

事業開始背景	
<p>江別市の交流人口を増やし、地域経済を活性化するために、実際に江別市に来てもらい、まちを知ってもらうことが重要であるため、市民・観光関連事業者・行政など江別市の観光に携わる全ての人が連携し、平成29年度に策定した江別市観光振興計画に基づき、効果的な観光振興の取組を行うものである。</p>	
事業を取り巻く環境変化	
<p>新型コロナウイルス感染症拡大による影響が緩和されたことにより、観光入込客数が増加傾向にあるなど当市の観光を取巻く状況は大きく変化しているが、一層の交流人口の拡大により地域の活力を維持し続けるため、道央圏からの誘客、周遊観光の充実が課題となっている。 また、観光振興計画の具現化を図る中心的組織としての役割を担うため、令和3年10月に江別観光協会が法人化し、一般社団法人えべつ観光協会となった。</p>	

令和4年度の実績による担当課の評価（令和5年度7月時点）		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	<p>上がっている</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p>	<p>理由根拠</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大による影響が緩和され、外出需要が高まったことで、江別市内の施設や店舗を訪れる方の人数が増加した。</p>
	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
成果向上余地	<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p>	<p>理由根拠</p> <p>観光振興計画に基づいた事業は、市全体の観光振興・地域経済等の活性化につながるため、市民、民間、行政が役割を分担しつつ連携し、自主的・積極的に取り組んでいくことで、さらなる観光振興の向上へつながる余地がある。また、江別観光協会が一般社団法人化したことで、民間の柔軟な発想を取り入れた観光振興計画の推進が期待できる。</p>
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
	<p>ある</p> <p>なし</p>	<p>理由根拠</p> <p>観光を取り巻く状況は大きく変化しており、観光振興計画に基づく事業の推進により成果指標である観光入込客数の維持又は増加を図るには、一定のコストが必要である。</p>

政策	02 産業		戦略	1 にぎわいと活力を創出するまちづくり			
取組の基本方針	03 観光による産業の振興		具体的施策	(1) 地域資源の発掘と活用			
開始年度	平成28年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独 補助金

事務事業の目的と成果及び指標

対象(誰、何に対して事業を行うのか)

市民及び観光客

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標1	市民	人	119,883	119,777	119,333	119,333
対象指標2	観光入込客数	人	1,361,201	1,216,970	1,584,938	1,216,970

手段(事務事業の内容、手法)

歴史的れんが建造物である旧ヒダ工場内にアンテナショップを設置し、観光・物産等の魅力を発信・プロモーションする。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標1	営業日数	日	362	351	361	362
活動指標2						

意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

江別市をはじめ、友好都市土佐市の特産品のほか、江別市の観光情報等、魅力的な情報が手に入る。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標1	アンテナショップ来店者数	人	16,659	15,056	16,104	15,056
成果指標2	アンテナショップ来店者数(市外)	人	4,017	4,089	4,841	4,089

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事業費(A)		千円	7,966	8,163	8,426	8,949
正職員人件費(B)		千円	3,815	3,804	3,802	3,842
総事業費(A+B)		千円	11,781	11,967	12,228	12,791

事業内容(主なもの)		費用内訳(主なもの)	
4年度	<ul style="list-style-type: none"> アンテナショップGET'S管理運営 壁面黒板チョークアート 	<ul style="list-style-type: none"> アンテナショップGET'S管理運営費 壁面チョークアート制作関連費 	8,138千円 123千円

事業開始背景
江別グレシャムアンテナショップとして、旧ヒダ工場の一部利活用を図ってきたが、商業施設として施設全体が活用されることに伴い、江別の魅力発信や観光案内等の新たな機能を加え、江別アンテナショップGET'Sとしてリニューアルした。
事業を取り巻く環境変化
新型コロナウイルス感染症拡大による影響の緩和と共に、営業形態や人流についても元に戻りつつある。今後、E BRIや市内事業者と協力しつつイベント等を積極的に開催し、来店者数を増加させていく取組を行うことが求められる。

令和 4年度の実績による担当課の評価（令和 5年度7月時点）		
成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
上がっていない		
<p style="text-align: right;">新型コロナウイルス感染症について、再拡大防止対策が実施されていた他、営業時間の短縮による対応を行った期間もあったため、来店者数は目標に達しなかったが、徐々に回復傾向にある。</p>		
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
成果向上余地 小		
<p style="text-align: right;">新型コロナウイルス感染症拡大による影響が緩和されはじめたことにより、来店者数は徐々に回復傾向にある。 また、友好都市の特産品販売イベントの開催や、江別市の観光情報を今後も継続して発信していくことで、来店者数が増加する余地がある。</p>		
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
	ある	理由根拠
	なし	
<p style="text-align: right;">現状、必要最低限のコストで運営しているため、経費削減は施設の管理運営に支障をきたす可能性がある。</p>		

事業名：都市と農村交流事業

【事業番号 764】
農業振興課 農畜産係

政策	02 産業			戦略	1 にぎわいと活力を創出するまちづくり				
取組の基本方針	01 都市型農業の推進			具体的施策	(2) 農畜産物の高付加価値化				
開始年度	平成18年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内農業者及び市民

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標 1	市内農業者	人	882	882	882	882
対象指標 2	市民	人	119,883	119,777	119,333	119,333

手段（事務事業の内容、手法）

「江別市農畜産園芸振興事業補助規則」に基づき、都市と農村の交流事業に対して補助する。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標 1	イベント開催回数	回	6	6	13	13
活動指標 2	各部会等開催回数	回	7	9	10	11

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

生産者と消費者との相互理解を深め、グリーンツーリズム関連施設（農作業体験施設、農家レストラン、農産物直売所など）の利用増を図ることで、市民の地産地消や農村地域の活性化につなげる。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標 1	グリーンツーリズム関連施設の利用者数	人	545,905	615,351	622,025	615,000
成果指標 2	イベント参加者の満足度	%	100	100	98	100

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事業費 (A)		千円	976	824	1,062	1,700
正職員人件費 (B)		千円	5,340	5,325	5,323	5,378
総事業費 (A+B)		千円	6,316	6,149	6,385	7,078

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
4年度	<ul style="list-style-type: none"> 江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会への補助（協議会の事業内容：野菜作り講習会開催、直売所キャンペーン実施、直売所MAP作成、収穫体験ツアー開催、農畜産物加工品ブランド認証シール作成、加工品フェア開催など） 6次産業化支援のための農業者等への補助 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会への補助 農畜産物加工新商品開発等支援補助金 	900千円 162千円

事業開始背景

農業への関心を高めてもらう機会を提供する場として、産地直売所や貸し農園（観光農園）などを通じた「まち」と「むら」のふれあい交流・体験活動を行っていきこうと市内の産地直売所17ヶ所と貸し農園6ヶ所により、江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会が平成17年5月24日に設立された。

事業を取り巻く環境変化

消費者との交流を図りながら、ニーズに応えた活動を展開している。令和2年からは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人流の抑制等が求められる状況にあるものの、アフターコロナ期を見据え、これまで中止や規模縮小していたイベントなどを少しずつ再開している。

令和4年度の実績による担当課の評価（令和5年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由根拠
	なし	

事業名：江別産農畜産物ブランディング事業 農業振興課 農畜産係

政策	02 産業			戦略	1 にぎわいと活力を創出するまちづくり				
取組の基本方針	01 都市型農業の推進			具体的施策	(2) 農畜産物の高付加価値化				
開始年度	平成16年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果及び指標

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内農業者及び市民

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
対象指標 1	市内農業者	人	882	882	882	882
対象指標 2						

手段（事務事業の内容、手法）

〈小麦〉「江別市農畜産園芸振興事業補助規則」に基づき、地元産小麦の安定供給への支援に対して補助する。
 〈黒毛和牛〉「えぞ但馬牛ブランド化支援事業実施要領」に基づき、次のとおり補助する。
 ①精液等購入経費：補助率1/2以内 ②繁殖牛自家保留：1万円以内/頭 ③受精卵移植：5,500円以内/回

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
活動指標 1	補助金額（小麦関係）	千円	1,583	1,520	1,546	833
活動指標 2	精液購入等補助金額	千円	610	590	700	700

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

農畜産物の安定生産及び安定供給を図ることで、既存商品の維持や新商品開発等につなげるとともに、市民への認知度を高めていく。

指標名		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
成果指標 1	特産品の認知回数	品目	2	2	2	2
成果指標 2						

事業費の推移		単位	2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度当初
事業費 (A)		千円	2,193	2,110	2,246	1,533
正職員人件費 (B)		千円	3,815	3,804	3,802	3,842
総事業費 (A+B)		千円	6,008	5,914	6,048	5,375

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
4年度	<ul style="list-style-type: none"> 小麦生産団体への補助 和牛生産団体への補助 	<ul style="list-style-type: none"> ブランド化小麦地域安定供給支援事業補助 1,546千円 黒毛和牛優良種雄牛精液購入等補助 700千円

事業開始背景

小麦品種「ハルユタカ」は全国的に知名度があり、特に江別産のイメージが強く、ブランド化できる品種として有望である。しかし、「ハルユタカ」は収量が不安定なことから、全道的に収穫量が減少し、これに伴って種子生産量も減少した。市内の作付面積確保には種子を自前で用意する必要がある。本事業では種子不作時の補てんを目的とした基金を設立し、種子生産拡大を誘導することによって「ハルユタカ」生産量の拡大を目指すこととした。

事業を取り巻く環境変化

黒毛和牛については、飼料価格の高騰等により営農コストは増大し、肉牛生産農家は厳しい状況に直面している。中力系小麦品種「きたほなみ」は、パンやラーメンでは「ハルユタカ」のブレンド用粉として使用され、うどんやお菓子にも使用されている江別産小麦製品として無くてはならない品種だが、現行の国の農業政策である経営所得安定対策においては、パンや中華麺用の強力・超強力系品種への交付金に加算措置を設けるなどの作付誘導策がとられており、市内においても「ゆめちから」をはじめとした強力・超強力系品種へ作付をシフトする生産者が増加し、「きたほなみ」の収量確保が困難となる可能性が出てきた。

令和 4年度の実績による担当課の評価（令和 5年度7月時点）

(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？		
成果動向及び原因分析	上がっている	理由 根拠
	どちらかといえば上がっている	
	上がっていない	
成果指標は、すでにブランディングされている小麦「麦の里えべつ」と黒毛和牛「えぞ但馬牛」の2品目で横ばいだが、小麦の加工品に欠かせない小麦品種「きたほなみ」の一定確保につながり、全道の黒毛和種の上物率（枝肉格付けA-5・A-4の割合）は約78%に対し、江別の黒毛和種「えぞ但馬牛」は18頭全頭で100%となっていることから、成果は向上していると考えられる。		
(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？		
成果向上余地	成果向上余地 大	理由 根拠
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
事業を継続し、小麦品種や黒毛和種の安定供給を図ることで、製品の拡大や付加価値の向上につながる。		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？		
コスト	ある	理由 根拠
	なし	
現在の飼料価格の高騰や国の強力粉加算の動向等を踏まえると、市内で生産される黒毛和牛や小麦品種の安定供給には、現状の支援を継続していく必要がある。		